

# 「思いやること」≠「甘やかすこと」

組込 益代

「思いやること」と「甘やかすこと」は違う。当たり前じゃないか。

と、今思いましたか？

そうですね。辞書で意味を調べなくても、うまい表現で違いを人に説明できなかったとしても、同じ意味でないことはなんとなくわかりますよね。

でも、「思いやること」≠「甘やかすこと」になってしまっていることってないですか？

私はあります。例えば、子供が好き嫌いを言った時とか、子供が約束を破った時とか、子供がいたずらした時とか、あと、子供が…。子供のことばかりが浮かんでできますが、仕事でも危うくそうなりかけることがあります。

## かわいい後輩、でもその仕事のやり方はよろしくない。さてどうする。

まだ経験も浅いし、仕方がない。

いきなり100点満点の仕事ができるとも思ってないし、優しい先輩でいたいから、できることならガミガミ言いたくない。そんな自分の都合もあって、

「あとはやっておくから、今度から気をつけて」

なんてことをつい言い放ってしまいそうになります。

あれ？これって本当に優しいのか？「思いやり」か？

違う…「甘やかし」だ。

ということで思い留まり言い方を変えます。

「先々のためにも、今回の件はちゃんと自分でやりきって欲しい。」

大怪我する前に、危ない習慣は治しておいたほうが良いという意図も伝えた上で、

せっかくやって貰った仕事だけど、後輩にはやり直してもらいます。

ここで大切なのは、何がどう良くないのか、後輩が納得できるようにきちんと説明すること。それが、「思いやり」だと私は考えています。

## 仲良しチームなだけでは駄目。

以前、「若手(or 新任)リーダーは、チームの人間関係、雰囲気重視するあまり、チームとしての成果に対する意識が甘くなるという罠に陥りやすい」という話を聞きました。

「いいよ、いいよ」とリーダーが言っていれば、「揉め事の少ない仲良しチーム」は容易に作れるかもしれませんが、「皆で協力して目標を達成できる良いチーム」は、それだけでは作れないですよね。

そんな「仲良しチーム」の罠にかからないように気をつけようと思う今日この頃でございます。